2 Ep- 3　子どもの家庭生活と共感性、個別性、セルフ・エスティーム（第３報）　家族コミュニケーションにおいて

木田淳子*、奈良由美子*、藤田祥子、守野美佐子、高野愛子、辰巳理恵子、野口知有**、○藤本多賀子**

（*大阪教育大、**大阪教育大・院）

（目的）家庭生活の共同の一要因となる家族コミュニケーションが、子どもの共感性、個別性、セルフ･エスティームの形成にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。

（方法）大阪府内の小学校５年生、中学校２年生、高等学校２年生を対象に、質問紙法に基づく調査を実施した。具体的には、家族コミュニケーションを①会話頻度、②会話における親の子どもに対する受容的対応、③共感的理解、④肯定的－否定的認知の４側面でとらえ、それらと子どもの共感性、個別性、セルフ･エスティームとの関連をx^2検定結果に基づき考察する。

（結果）次のことが明らかとなった。

１）家族会話頻度は、子どもの共感性、個別性、セルフ･エスティームにプラスの影響を及ぼしている。

２）会話における親の子どもに対する受容的対応、肯定的認知は、いずれも子どもの共感性、個別性、セルフ･エスティームにプラスの影響を及ぼしている。

３）会話における親の子どもに対する共感的理解は、子どもの個別性、セルフ･エスティームにプラスの影響を及ぼしている。

４）会話における親の子どもに対する否定的認知は、子どものセルフ･エスティームにマイナスの影響を及ぼしている。